

読者ニュース

2013年11月3日(日) 1010号

発行 日本共産党清水町支部
連絡先 森野善広 伏見 442-3 電 976-2747
吉川清里 徳倉 440-6 電 931-1662
Eメール morino618@thn.ne.jp

視察報告

森野善広

建設経済常任委員会

【岩手県陸前高田市】

東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市を10月23日に視察しました。

最初に「高田松原」という道の駅で犠牲者の慰霊碑を訪れました。海に近いところですが、建物が三角形をしていたので津波の被害で倒壊しませんでした。観光客のうち3人が建物の一番上に避難して助かったそうです。津波は、陸前高田で高さ約14m人口24000人のうち1700人が犠牲になりました。

復興の様子は、がれきの処理がほとんど終わったというものでした。津波で流されたところは、ほとんどを居住地とせず、高台や盛土をしたところに居住地を移す計画です。被災前の写真を見ましたが、市街地や住宅街が広がっていることが全くなくなっていて、今の様子から想像することもできません。

元の土地を捨てて、新しい土地に移るのは、並大抵のことではないと思います。重機がたくさん入っていましたが、まだ手がついたばかりという感じでした。復興整備は長い年月がかかりそうです。これからどのくらいの年月がかかるか想像はできませんが、一日も早い復興を望むだけです。



松原で一本だけ残った「奇跡の一本松」

【秋田県横手市】

町おこし、観光振興のテーマで横手市を24日に視察しました。横手市はこれまで雪で作った「かまくら」で有名でしたが、イベント型観光は大震災後大きな落ち込みになっています。観光の振興には外的要因に左右されない新たなものが必要だと振興計画の取り組みを行いました。

計画づくりは、6部会にわかれ、観光資源の掘り起こし、農商工の連携、交通体系等のテーマで32人の委員で協議を行いました。

市の総合計画からさらに踏み込んで観光計画を作り、地域の人たちが一体となって必ず成果を出そうという意気込みが反映されています。

○「横手やきそば」の取り組み

横手やきそばによる町おこしの取り組みは平成12年ごろから行われています。店舗組織の「横手やきそばのれん会」が中心に行いますが、行政もそれを後押しします。「B-1グランプリ」にも参加し次第に知名度が上がってきました。

そして平成21年に横手で「B-1グランプリ」が開かれると市民の「横手やきそば」に対する意識を変えることとなります。「グランプリ」の来場者は26.7万人その経済効果は13億円。そしてイベントの時だけに終わらず、その後も観光客が増え、その年で32億円の経済効果をあげました。

「焼きそばを提供している店だけに役場の予算を使っているのか」など、様々な意見がありましたが、いまは「焼きそばを売り込むのではなく、横手を売りこむ」という意識に変わってきているということです。